

エコアクション21 環境経営レポート

対象期間：2022年6月から2023年5月



四国百名山：蟠蛇森

2023年8月17日発行

有限会社 梅原建設

高知県須崎市上分甲170-5

目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	2～3
3. 環境経営方針	4
4. 実施体制	5
5. 環境経営目標	6
6. 環境経営計画	7
7. 環境経営目標の実績とその評価	8
8. 環境経営計画の実績取組結果とその評価	9
9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	10
10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟などの有無	11
11. 代表者による全体評価と見直し・指示	12
12. 具体的な取り組み	13
13. 令和3年度 工事完成写真	14

1. 組織の概要

【事業所名】 有限会社 梅原建設

【代表者氏名】 代表取締役 梅原 貴司

【所在地】 本社 〒785-0026高知県須崎市上分甲170-5
倉庫 高知県須崎市上分甲168-2
資材置場 高知県須崎市上分甲

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者氏名 梅原 貴司
連絡先担当者
連絡先 TEL : 0889-46-0027
FAX : 0889-46-0829
E-mail : ths-mut@abelia.ocn.ne.jp

【事業活動の内容】

建設業（主に高知県や須崎市の道路工事、河川工事など土木工事を行っています。）

建設業許可

許可番号 高知県知事許可（特定-3）第1836号
許可年月日 2021年 9月 17日
有効年月日 2026年 9月 17日

建設業の種類 土木工事業 とび・土工 工事業

【事業規模】

設立年月日 1971年 4月（法人化）
資本金 30,000千円
完成工事高 84,000千円（決算時期 2023年5月31日）
工事件数 11件
従業員数 5人（2023年6月現在）
事業所敷地面積 本社 37.85 m2
倉庫 315.85 m2
資材置き場 1175.54 m2

事業所延べ床面積 本社 36.09 m2
倉庫 295.74 m2

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】

有限会社 梅原建設 全社（全組織、全活動、全従業員）

【レポートの対象期間】

2022年6月から2023年5月

【環境経営レポートの発行日】

2023年8月17日発行

【次回環境経営レポートの発行予定日】

2024年8月発行予定

【作成責任者】

環境管理責任者 梅原 貴司

対象となる持続可能な開発目標(SDGs)範囲

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs No	項 目	当社対象有無	備 考
1	貧困をなくそう		オーガニック
2	飢餓をゼロに		オーガニック、フェアトレード
3	すべての人に健康と福祉を		高齢者雇用
4	質の高い教育をみんなに		環境教育の実施
5	ジェンダー平等を実現しよう		障害者雇用
6	安全な水とトイレを世界中に	○	水道使用、節水、雨水利用
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに		再生可能エネルギー使用
8	働きがいも経済成長も		高齢者雇用、障害者雇用
9	産業と技術革新の基礎をつくろう	○	低燃費、長寿命化、環境負荷低減
10	人や国の不平等をなくそう		高齢者雇用、障害者雇用
11	住み続けられるまちづくりを	○	CO2削減、エコドライブ
12	つくる責任 つかう責任	○	コピー用紙削減、環境配慮工事
13	気候変動に具体的な対策を	○	CO2削減、省エネ、環境配慮工事
14	海の豊かさを守ろう		下水道、排水処理の場合
15	陸の豊かさを守ろう		緑化、植林、社有林の保全
16	平和と公正をすべての人に		寄付、環境教育
17	パートナーシップで目標を達成しよう		寄付、環境教育

3. 環境経営方針

環境経営理念

有限会社梅原建設は、高知県須崎市地域を対象に事業活動を行っている企業として、建設事業を通じて社会貢献することを目指していくとともに、環境への影響を考慮し、地域の環境保全に向けて、全社で自主的積極的に環境経営に取り組み、継続的に環境負荷の削減に取り組めます。

環境経営方針

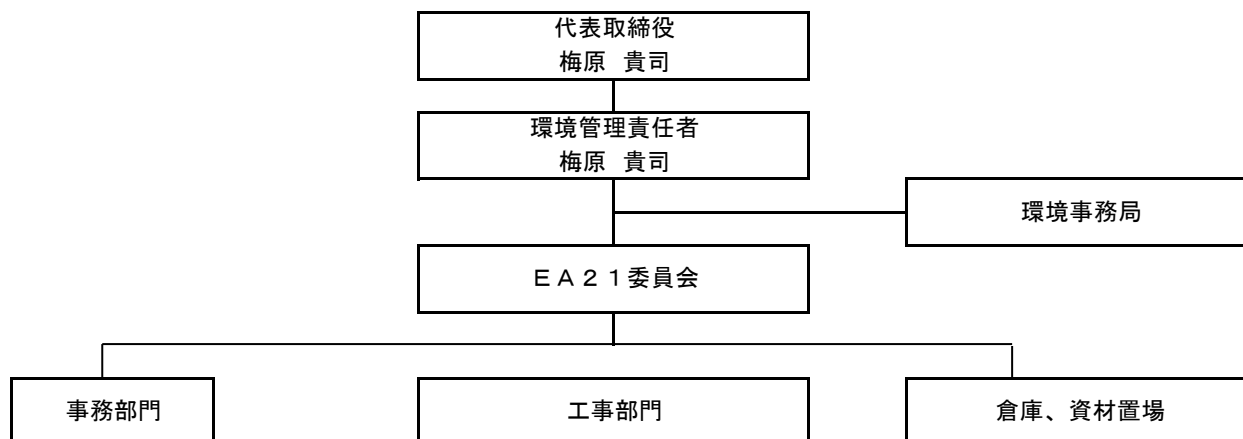
1. 環境関連法規等を遵守します。
2. 建設機械、車両等の燃料使用量の削減により二酸化炭素排出量を削減します。
3. 電力使用量の削減により二酸化炭素排出量を削減します。
4. 廃棄物の発生抑制、削減、リサイクルを行います。
5. 水使用量を削減します。
6. 化学物質使用量を削減します。
7. 建設工事における環境負荷を削減します。
8. 環境に優しい資材を使用します。
9. 環境に配慮した設計、施工に取り組めます。
10. 生物多様性を配慮します。
11. 環境教育に取り組めます。
12. 環境経営方針を全社員に周知します。
13. 社会貢献活動に積極的に取り組めます。
14. 環境経営レポートを公表します。
15. SDGsへの取り組みを推進します。

制定日 2022年2月1日

有限会社 梅原建設

代表取締役 梅原 貴司

4. 実施体制



役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、人材の準備 - 環境管理責任者を任命 - 経営における課題とチャンスの明確化 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 - 環境経営目標、環境経営計画の承認 - 代表者による評価と見直し・指示 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表の承認 - 環境経営目標、環境経営計画を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認
環境事務局	- 環境管理責任者の補佐 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェック - 環境経営目標、環境経営計画案の作成 - 環境経営活動の実績集計 - 環境関連法規等の取りまとめ表の作成及び最新版管理 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
EA21委員会	- 環境経営計画の審議 - 環境経営活動の確認・評価
部門長	- 自部門における環境方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成、試行・訓練の実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的積極的に環境活動に参加

５．環境経営目標

(１) 単年度環境経営目標（２０２２年６月から２０２３年５月）

項目	単位	基準値	目標値
		2019年6月から 2020年5月の 1年間	2022年6月から 2023年5月 (%)は基準値に対す る削減率
電力使用量	kWh	3,700	3,441 (7%)
化石燃料使用量	-	-	-
灯油	L	108	100 (7%)
ガソリン	L	4,424	4,114 (7%)
軽油	L	13,887	12,914 (7%)
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	48,573	45,172 (7%)
CO ₂ 排出原単位	kg-CO ₂ /売上高	3.02	2.96 (2%)
水使用量	m ³	19	16 (8%)
産業廃棄物排出量	t	103	94 (8%)
産業廃棄物再資源化率	%	100	100
一般廃棄物排出量	kg	80	74 (7%)
化学物質使用量	kg	-	-
環境配慮資材の使用	件	-	全件
環境配慮工事の実施	件	-	全件
社会貢献活動	回	10	10

- ・電力のCO₂排出係数は四国電力調整後排出係数0.528kg-CO₂/kWh（2020年1月公表）を使用
- ・一般廃棄物排出量は2020年10月から計測する。
- ・環境配慮資材の使用については全件を対象に実施する。
- ・環境配慮工事については全件を対象に実施する。
- ・社会貢献活動は会社周辺、現場周辺の清掃活動を実施する。各種団体への支援などを含む。
- ・今回から2021年度の3.02を基準として、CO₂排出原単位を設定した。

(２) 中長期目標

	単位	2019年度	2022年度	2023年度	2024年度
		2019年6月から2020年5月			
		実績(基準値)	目標（％）内は削減率	目標（％）内は削減率	目標（％）内は削減率
電力使用量	kWh	3,700	3,441（7％）	3,367（9％）	3,330（10％）
化石燃料使用量	－	－	－	－	－
灯油	L	108	100（7％）	98（9％）	97（10％）
ガソリン	L	4,424	4,114（7％）	4,025（9％）	3,982（10％）
軽油	L	13,887	12,914（7％）	12,637（9％）	12,498（10％）
CO2 排出量	kg-CO2	48,573	45,172（7％）	44,201（9％）	43,716（10％）
CO2 排出原単位	kg-CO2/売上高	－	2.96（2％）	2.90（4％）	2.87（5％）
水使用量	m3	19	17（8％）	17（9％）	17（10％）
産業廃棄物排出量	t	103	94（8％）	93（9％）	92（10％）
産業廃棄物再資源化率	％	100	100	100	100
一般廃棄物排出量	kg	80	74（7％）	73（8％）	72（9％）
化学物質使用量	kg	－	－	－	－
環境配慮資材の使用	件	－	全件	全件	全件
環境配慮工事の実施	件	－	全件	全件	全件
社会貢献活動	回	10	10	10	10

6. 環境経営計画

期間：2022年6月 から2023年5月

項目	具体的な取組内容	担当部署、責任者
現場における重機・車両の使用によるCO2排出量削減	アイドリングストップ	梅原貴司
	アクセル開閉度80%で使用	
	エコ安全運転の実施	
	タイヤ圧の点検、車両整備点検	
	車両の安全走行、車両に無駄なものを積まない	
電気使用におけるCO2排出量削減	こまめに電気を消す	梅原沙織
	長時間使用しないものはコンセントを抜く	
	エアコンの設定温度（暖房20℃、冬28℃）	
	電子機器のエコ設定	
産業廃棄物排出量の削減	再生、再利用に努める。	梅原貴司
	現場内での分別	
	適切な施工による産廃排出量の抑制	
一般廃棄物排出量の削減	用紙の節約	梅原沙織
	こまめな分別	
	ごみの資源化	
	パーパーレス化	
総排水量の削減	節水習慣	梅原沙織
	水道栓の閉め忘れ防止	
	洗車用水の節約	
化学物質使用量削減	化学物質使用量の把握	梅原貴司
	化学物質使用量の削減検討	
環境配慮資材	環境を配慮した製品資材の優先使用	梅原貴司
	県内産資材の優先使用	
	木製看板、木製型枠の使用	
環境配慮工事	現場周辺への環境配慮	梅原貴司
	騒音・振動防止、汚濁防止	
	低騒音・排出ガス対策型機械の使用	
	工事着手前に環境配慮チェックをする	
	現場での環境活動のパトロール	
	環境配慮工事の創意工夫提案	
	ICT工事の推進	
社会貢献活動	会社や現場周辺の清掃活動	全員
	ロードボランティアへの参加	
	環境団体への参加・支援	

7. 環境経営目標の実績とその評価

1年間（2022年6月から2023年5月）実績及び目標達成状況

項目	単位	環境目標	実績	目標と実績との差（増減）	削減率（%）	目標達成状況の評価
電力使用量	kWh	3,441	2,658	-783.0	-22.8%	◎
灯油	L	100	70	-30.0	-30.0%	◎
ガソリン	L	4,114	3,914	-200.0	-4.9%	◎
軽油	L	12,914	12,501	-413.0	-3.2%	◎
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	45,172	42,912	-2,260.0	-5.0%	◎
CO ₂ 排出原単位	kg-CO ₂ /売上高	2.96	5.10	2.14	59.0%	×
水使用量	m ³	16	12	-4.0	-25.0%	○
産業廃棄物排出量	t	94	45	-49.0	-52.1%	○
産業廃棄物再資源化率	%	100	100	0.0	100.0%	◎
一般廃棄物排出量	kg	74	72	-2.0	-2.7%	○
化学物質使用量	kg	—	—	—	—	—
環境配慮資材	件	全件	全件	0.0	100.0%	◎
環境配慮工事	件	全件	全件	0.0	100.0%	◎
社会貢献活動	回	10	10	0.0	100.0%	◎

電力のCO₂排出係数は、四国電力の調整後排出係数0.528kg-CO₂/kWhを使用。

目標達成の評価 ◎：削減ができた ○：ある程度削減ができた △：削減まであと一歩 ×：削減が十分できなかった

削減率＝（目標値と実績値の差／目標値）＊100％

マイナスの％は、実績値が目標値を超えていないことを示す。

目標達成状況に関するコメント（各項目について目標達成した要因、達成しなかった要因を記載する。）

①今年度は前年度より工事量が増加傾向だった。しかも遠距離の現場が多かった。車の相乗りやCO₂の排出量抑制機器の使用、燃料の使用量を工夫をしたことで抑えることができた。目標は達成しているので、これからも持続していきたい。

CO₂排出原単位については気を付けること。

②環境配慮資材の使用については、県産材使用の看板設置、木製型枠使用など全工事で実施した。

③環境配慮工事については、全工事において騒音・振動防止、濁水防止など実施した。ICT工事の実施。

8. 環境経営計画の取組結果とその評価

期間：2022年6月 から 2023年5月

項目	取組結果	評価	今後の取組へのコメント
現場における重機・車両の使用によるCO2排出量削減	アイドリングストップを実施できた。	◎	全社でアイドリングストップ、車両点検を実施できた。さらに安全運転、省エネ運転など一層取り組みを実施する。
	アクセル開閉度80%で使用については出来ていた。	○	
	エコ安全運転を実施した。	○	
	タイヤ圧の点検、車両整備点検が実施できた。	◎	
	「車両の安全走行、車両に無駄なものを積まない」については実施できた。	○	
電気使用におけるCO2排出量削減	こまめに電気を消すは実施できた。	◎	電気使用量の削減についてはほぼ良く取り組むことができた。今後事務所の照明をLEDに切り替えていく。
	長時間使用しないものはコンセントを抜くなど実施した。	◎	
	エアコンの設定温度（暖房20℃、冬28℃）は実施できた。	○	
	電子機器のエコ設定は実施できた。	◎	
産業廃棄物排出量の削減	再生、再利用に努めることができた。	○	現場での分別に今一層取り組んでいく。
	現場内での分別を実施した。	○	
	現場において産廃排出量の抑制を実施できた。	○	
一般廃棄物排出量の削減	用紙の節約は実施できた。	◎	事務所で一般廃棄物排出量削減についてはほぼ取り組むことができた。
	こまめな分別を実施した。	◎	
	ごみの資源化を実施した。	◎	
	パーパーレス化を図った。	○	
総排水量の削減	節水を意識して実施した。節水ラベルを貼った。	◎	洗車用水使用については削減するよう検討していく。
	水道栓の閉め忘れ防止を図った。	◎	
	洗車用水の節約ができた。	○	
環境配慮資材	環境を配慮した製品資材の優先使用ができた。	◎	現場での環境配慮資材の使用がほぼできている。今後より一層対応していく。
	県内産資材の優先使用を行った。	◎	
	木製看板、木製型枠の使用を行った。	◎	
環境配慮工事	現場周辺への環境配慮を行った。	◎	現場での環境配慮工事については、工事着手前のチェックが実施されている。また環境パトロールが実施されている。今後創意工夫提案をより一層取り組むものとする。
	騒音・振動防止、汚濁防止を行った。	◎	
	低騒音・排出ガス対策型機械を使用した。	◎	
	工事着手前に環境配慮チェックを実施した。	○	
	現場での環境活動のパトロールを実施した。	◎	
	測量等でICT化を実施した	◎	
社会貢献活動	会社周辺、現場周辺の清掃を実施した。	◎	今後とも地域社会への貢献を実施していく。
	ロードボランティアへの参加、環境団体への参加・支援を実施した。	◎	

評価の方法：評価は毎月実施するエコアクション21の社内会議で取り組みを確認しその結果により実施した。

評価の基準： ◎ 十分に取り組み成果があった ○ 取り組むことができた △ 今一步の取り組みが必要
× 取組が不十分であった

9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

9. 1 次年度の環境経営目標

次年度の環境経営目標は「5. 環境経営目標 中長期目標」に記載の通りである。

9. 2 次年度の環境経営計画

期間：2023年6月 から 2024年5月

項目	具体的な取組内容	担当部署、責任者
現場における重機・車両の使用によるCO2排出量削減	アイドリングストップ	梅原貴司
	アクセル開閉度80%で使用	
	エコ安全運転の実施	
	タイヤ圧の点検、車両整備点検	
	車両の安全走行、車両に無駄なものを積まない	
電気使用におけるCO2排出量削減	こまめに電気を消す	梅原沙織
	長時間使用しないものはコンセントを抜く	
	エアコンの設定温度（暖房20℃、冬28℃）	
	電子機器のエコ設定	
産業廃棄物排出量の削減	再生、再利用に努める。	梅原貴司
	現場内での分別	
	適切な施工による産廃排出量の抑制	
一般廃棄物排出量の削減	用紙の節約	梅原沙織
	こまめな分別	
	ごみの資源化	
	パーパーレス化	
総排水量の削減	節水	梅原沙織
	水道栓の閉め忘れ防止	
	洗車用水の節約	
化学物質使用量の削減	SDS確認とPRTTR制度該当化学物質の把握	梅原貴司
	使用量の確認、削減方法の検討	
環境配慮資材	環境を配慮した製品資材の優先使用	梅原貴司
	県内産資材の優先使用	
	木製看板、木製型枠の使用	
環境配慮工事	現場周辺への環境配慮	梅原貴司
	騒音・振動防止、汚濁防止	
	低騒音・排出ガス対策型機械の使用	
	工事着手前に環境配慮チェックをする	
	現場での環境活動のパトロール	
	環境配慮工事の創意工夫提案	
	ICT工事の推進	
社会貢献活動	会社周辺、現場周辺の清掃活動	全員
	ロードボランティアへの参加	
	環境団体への参加・支援	

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟などの有無

(1)環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名		規制内容	遵守確認日	確認者
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	第3条	事業者の責務：事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理	工事毎	梅原
	第11条	事業者はその廃棄物を自ら処分すること	工事毎	梅原
	第12条	産業廃棄物の事業者の処理	工事毎	梅原
	第12条	収集運搬車両に表示、書面を備えつける。	工事毎	梅原
	第12条2	産廃保管場所には掲示（60cm＊60cm以上）	工事毎	梅原
	第12条3	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付。（第1項）	工事毎	梅原
	第12条3	交付状況報告書作成及び高知県知事または高知市長への提出（第7項）	工事毎	梅原
	第12条7	多量排出事業者は減量化計画を作成し、知事に提出	工事毎	梅原
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	第9条、第10条	分別解体等の実施義務（解体工事は床面積80m2以上、新築増築は床面積500m2以上）、知事の7日前に届け出。	工事毎	梅原
	第16条	再資源化の実施義務	工事毎	梅原
資源有効利用促進法（リサイクル法）	第4条	事業者の責務	工事毎	梅原
騒音規制法	第14条	特定建設作業の実施の届出（建設作業開始7日前までに市町村長に届出）	工事毎	梅原
振動規制法	第14条	特定建設作業の実施の届出（建設作業開始7日前までに市町村長に届出）	工事毎	梅原
高知県環境条例	第6条	事業者の責務	工事毎	梅原
自治体条例（所在地自治体の環境条例）		自治体条例（須崎市）	工事毎	梅原

環境関連法規等の遵守を確認しました。適正に遵守されています。

(2)違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。なお関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。訴訟及び環境に関する外部からの苦情・要望等はありません。

11. 代表者による全体評価及び見直し・指示

見直しに必要な情報(環境管理責任者からの報告)				代表者による見直し 変更の必要性の有無・指示事項
前回指示への取組結果 ☐ 代表者からの前回指示事項はない。				環境経営方針 変更の必要性: ☐ 有 ☒ 無 コメント ☐ 現行の環境方針を継続する。
環境経営目標達成状況及び環境経営計画取組状況				
項目	環境目標達成状況	環境活動計画取組状況	コメント	環境経営目標・環境経営計画 変更の必要性: ☐ 有 ☒ 無
電力使用量の削減	☐	☐	事務所での節電ができた。	コメント ☐ 現行の環境経営計画の取組内容を継続する。
化石燃料使用量の削減	☐	☐	現場での工事が減少し重機機械の稼働が減り燃料消費の減少となった。	
CO2排出量の削減	☐	☐	現場での燃料使用管理、効率運転に留意する。	
CO2排出原単位	×	☐	河川工事で燃料使用量が増えたため。	
水使用量の削減	☐	☐	節水に努める。	
一般廃棄物排出量の削減	☐	☐	分別、リサイクルに努める。	
産業廃棄物排出量の削減	☐	☐	再資源化率の向上を目指す。	
化学物質使用量削減	—	☐	化学物質使用量削減に向けて取り組む。	
環境配慮資材使用	☐	☐	現場での環境配慮資材をより一層高める。	
環境配慮工事実施	☐	☐	現場での環境に配慮した工事に取組、創意工夫提案を図る。	実施体制 変更の必要性: ☐ 有 ☒ 無
社会貢献活動	☐	☐	地域の環境活動への協力をより一層図る。	
環境経営目標達成の評価 ○:十分に達成、△:達成までに今一歩 ×:目標達成に遠く及ばず 環境経営計画の取組状況の評価 ○:十分に取組むことができた △:一部に十分でない状況があった ×:あまり取組むことができなかった				総括及び指示 1. 全社員の協力のもとに実施できた。 2. 工事が増加傾向であったが社員一同のもと現場での化石燃料使用、CO2排出量の目標達成が出来た。これからも、より一層現場での取り組みに留意して目標達成を目指し持続すること。 3. 事務所での節電、一般廃棄物排出量の取組などは適切に実施できている。今後とも継続すること。 4. 環境に配慮した工事について当社の技術力を発揮し提案力を高めること。 5. 環境教育及び社内コミュニケーションにより社員の環境への意識及び取組をより活発化すること。 2023年8月1日 代表取締役 梅原 貴司
環境関連法規類の遵守状況				
☒ 遵守した。				
外部からの環境に関する苦情や要望				
☒ 苦情はない。				
代表者自ら得た情報				
特になし				

12.具体的な取り組み

建設機械・工事車両のアイドリングストップ



バックホウ



軽四トラック



4tダンプトラック



3tダンプトラック

本社事務所節電・節水状況

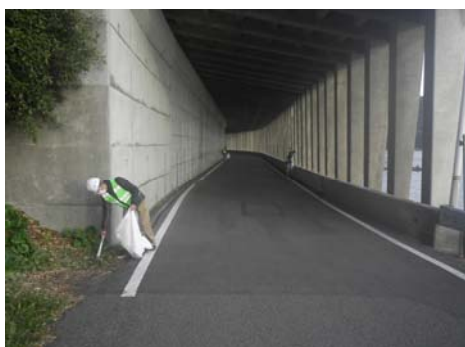


節電



節水

ロードボランティア実施状況



13.令和3年度 完成工事写真

